合志市
KOSHI CITY

合志 魅力 図鑑

日本代表・女子主将として
世界剣道選手権大会へ

# 渡邊タイ

合志市出身・熊本県警

合志市市民栄誉賞

## 全日本初優勝、日々の練習を糧に
## 女子日本代表の主将として臨む世界の舞台

— 昨年は全日本選手権で悲願の初優勝を果たしました。

「９回目の出場で初めての優勝でしたので、直後は夢みたいな感じでした。大会が終わってから“おめでとう”と言われたり、祝賀会を開いていただいたりして、“優勝したんだな”という実感が湧きました」

— 次はいよいよ世界選手権ですね。

「６年ぶりの開催ですので、他の国のレベルも上がっていると思います。プレッシャーがないかと言われたら嘘になるんですけど、プレッシャーをプラスに変えて臨みたいですね」

— 海外での大会はコンディション調整が大変そうですね。

「ヨーロッパでの大会ですので、食事と時差の面はちょっと怖いかなという感じですね。大会当日にベストコンディションにしないといけませんので、どうにかして自分で調整しないといけないなと思います。試合をやること自体は、今までの経験があるので、あまり心配はありません。この大会に向けて２年ぐらい、みんなで合宿をしてきたことは間違いないので、それを自分の自信に変えてやっていけたらいいなと思います」

— 今回は、女子日本代表の主将として臨みますね。

「以前は自分が先陣を切っていく気持ちでした。今回は主将としてチーム全体を見る必要があります。大会に向けた合宿でも周りの人たちと協力してコミュニケーションをとるようにしています。今までにはないことです」

— 渡邊さん自身の課題はどうですか？

「技術面よりもメンタル面ですね。世界選手権は国をかけた戦いで不安に陥ることもあるとは思うんですけど、それを見て見ぬふりしない。今自分がなぜ不安や恐怖に陥っているのかを突き詰め、メンタル面を整えて強くしたいと思います」

— 厳しい練習の積み重ねは自信になるのではないですか？

「根拠のない“大丈夫”という言葉が一番危ないと思っています。みんなできつい練習をしてきた事実は、“大丈夫”という根拠に結びつくはずです。あと１回合宿がありますので、もっともっと強い気持ちになれるよう、１日１日を大事に過ごしていきたいです」

# 周りの支えに感謝
# 剣道人生の集大成へ

— 主将としての出場も含め、今回の世界選手権は渡邊さんにとって集大成という思いはありますか？

「もちろん、その思いはあります。毎回そういう気持ちにはなるんですけど、年齢的なことなどを考えると、やっぱり自分の集大成と言えます」

— 長く剣道を続けてきた原動力はどんなことですか?

「周りの方々の支えですね。そのおかげだと思っています。剣道を始めた小学生の時の指導者から今の指導者に至るまで、もちろん応援してくださる皆さんの声援もそうです。やっぱり自分の中の一番の原動力になっていると思います。皆さんに恩返ししたいという気持ちで、ずっと続けてきています」

— 職場の皆さんの支えも大きいですよね。

「そうですね。毎日練習できる環境を整えてくださっています。職場への感謝の気持ちは当然あります」

— 剣道を続けてきて良かったですか？

「そう思います。私が多くの方とコミュニケーションとれるのも、合志市の方が声をかけてくださるのも、剣道をやっているおかげです。剣道を続けてきて良かったと、改めて思いますね」

# 目指すは 日本の完全制覇

― 昨年は『合志市市民栄誉賞』の授与もありました。

「今まで以上に身が引き締まる思いですし、本当に感謝しています。剣道が盛んな合志市で生まれ育ち、今まで剣道を続けてこられたのは、小さい時の教えがあったからだと思います。私でも世界の大会に出られる選手になりました。こどもたち全員に可能性があると思いますので、夢を諦めないで欲しいです」

― 7月の世界選手権が目前となりました。改めて意気込みは？

「大会は、団体と個人があります。私自身は、今回は団体でのエントリーになると思いますが、全身全霊をかけて試合したいですね。日本代表という、チームとしては“完全制覇”を目指して頑張りたいです。大会が終わった時に“団体も個人も日本が優勝していた”という結果に結びつけて、その時に“良かったな”と思えたらいいですね。合志市の皆さんの応援、よろしくお願いします」

令和６年５月29日インタビュー
（聞き手：合志市企画課　堀川 高輝・三宅 宣行）